

# 東北ハイテク研究会

ニュースレター (No.42 2020.3)

(東北農食産学連携ネットワーク)



“東北農食産学連携ネットワーク” 第42号をお届けします。

第42号では、東北ハイテク研究会セミナー「福島県でのサツマイモの可能性を探る－阿武隈地域の葉タバコ栽培跡地での実証栽培－」について報告します。

(R2.2.27 於：福島県田村市、参加者61人)

## 開催目的

福島県の阿武隈地域の田村市は葉タバコ栽培が盛んであったが、タバコの消費量の減少に伴って、栽培面積は激減し、その多くが耕作放棄地になっている。葉タバコに替わる品目としてピーマン、トマトなどの野菜の栽培が行われているが、さらに品目を増やし、耕作放棄地を減らし、農業の再興を図っていく必要がある。

一方、サツマイモはこれまで関東以南で広く栽培されてきたが、最近では気候温暖化もあって、徐々に栽培が北上し、現在では北海道産のサツマイモも生まれ始めているなど、福島県における産地形成も十分可能である。

このため、田村市における農業の現状とサツマイモ導入の可能性、サツマイモの作物的価値、現在サツマイモの栽培に取り組んでいる生産組織における栽培実態などについて情報を共有し、栽培上の問題点や新しい用途など今後の生産振興に向けた意見交換を行う。

## プログラム

**テーマ：福島県でのサツマイモの可能性を探る**  
**－阿武隈地域の葉タバコ栽培跡地での実証栽培－**

### <講演・話題提供>

講演1 サツマイモの作物的価値と商品性

東北地域農林水産・食品ハイテク研究会 小巻 克巳

講演2 サツマイモプロジェクトの実情と問題点

特定非営利活動法人

うつくしま・ふくしま農産物普及推進協議会事務局長 松村 正彦 氏

### 講演3 サツマイモ栽培試験に参加して

特定非営利活動法人チームふくしま 応援団 佐久間 辰一 氏

#### <講演・討議内容>

講演1では、サツマイモは平均気温が18℃以上の日が4か月以上あれば経済的な栽培が可能なこと、生産量全体では年々減少傾向にあるが最近では青果用に加え、焼きいもや大学いもなどへの需要が高く、供給が不足しており、特に茨城県では粗生産額が数年前に比べて倍増していること、が小巻から紹介された。さらにサツマイモが甘くなる理由、苗を植えるときの工夫などについて、科学的知見に基づいてわかりやすく説明された。

講演2では、NPO法人うつくしま・福島農産物普及推進協議会の事務局長の松村氏から、現在進行中のサツマイモプロジェクトの現状と問題点が紹介された。すでに「あぶくまブランド農産物生産組合」が設立されたこと、令和元年度は約1.5ha栽培され、収量は1.8t/10aとやや低かったが、今後の栽培改善で十分採算が取れる状況にあることが確認されたこと、令和2年度は5haまでに栽培面積を拡大し、生産組合が販売を受託して青果、干しいも、大学いも、焼きいも用として長期販売していくとの内容であった。

講演3では、実際に栽培した佐久間氏から、施肥や農薬散布を行わなかったものの、病害虫の被害もなく、1.6t/10aの収量を得たという報告が行われた。

今回のセミナーを通して、阿武隈地域でサツマイモの栽培が十分可能であること、田村市においてサツマイモのキュアリング貯蔵庫の整備をはじめとする支援事業が行われていること、また関係者が非常にサツマイモ栽培に前向きであることなど、サツマイモの産地化が期待された。



特定非営利活動法人  
うつくしま・ふくしま農産物普及推進協議会  
理事長 武田氏のご挨拶



セミナーの様子

なお、本セミナーで発表の内容につきまして、講師の方からご承諾をいただき講演資料として、当研究会のHP（URL：<http://tohoku-hightech.jp/>）に掲載しております。